

▼プロスタンディン注射用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 アルプロスタジルアルファデクス (U) alprostadil alfadex 【分類】 プロスタグランジン E1 製剤

【単位】 ▼20 μ g・▼500 μ g/V

■動脈内投与：1回10～15 μ g ■静脈内投与：1回40～60 μ g

【用法】 ■生食5mLに溶解し、0.1～0.15ng/kg/minで持続動注 ■輸液500mLに溶解し、2時間かけて点滴静注

【透析患者への投与方法】主に肺で代謝されるので減量する必要はないが、透析患者は血圧が不安定になることがあるので、投与速度を調節する等、血圧に注意が必要。水分制限のある患者では投与速度が1.2 μ g/kg/2hrを越えないように20mL生食または7%NaHCO₃20mL [メイロンで溶解すると血管痛が少ない (現代医療 28:1581-1584, 1996)] に溶かしインフュージョンポンプを用いて持続静注 (5)

【保存期腎不全患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【特徴】末梢血管拡張・血小板凝集抑制・赤血球変形能の改善・活性酸素産生抑制等の作用により、血流量を増加させ、末梢循環障害を改善する。

【主な副作用・毒性】ショック、アナフィラキシー様症状、心不全、肺水腫、脳出血、消化管出血、無顆粒球症、白血球減少、肝機能障害、黄疸、間質性肺炎、血圧降下、四肢疼痛など

【モニターすべき項目】血液ガス、pH、血圧、ECG、HR、呼吸数、体温、呼吸状態 (U)

【代謝】1回の肺循環で最大80%が代謝される (U)

【排泄】腎で代謝物として投与24hr以内に完全に排泄 (U)

【t_{1/2}】 α 相0.2min、 β 相5～10min (U)

【蛋白結合率】81～99% (U) 92% (11)

【Vd】0.65～0.82L/kg (11)

【MW】354.49 (アルプロスタジル)

【透析性】肺でのクリアランスが高いため、透析による影響は少ないと考えられる (5)

【TDMのポイント】TDMの対象にはならない 【pKa】5.02 (1)

【効果持続時間】投与持続時間に依存 (U)

【更新日】20121101

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。